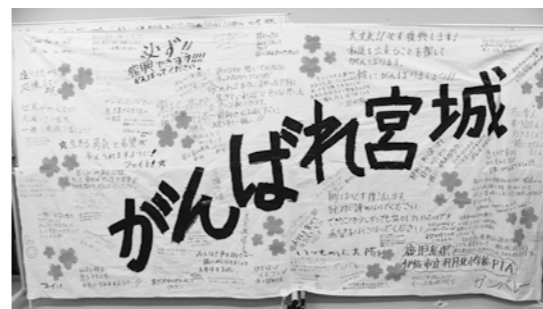


温かい支援の輪に感謝

東日本大震災により、お亡くなりになられた多くの皆様... 温かい支援の輪に感謝

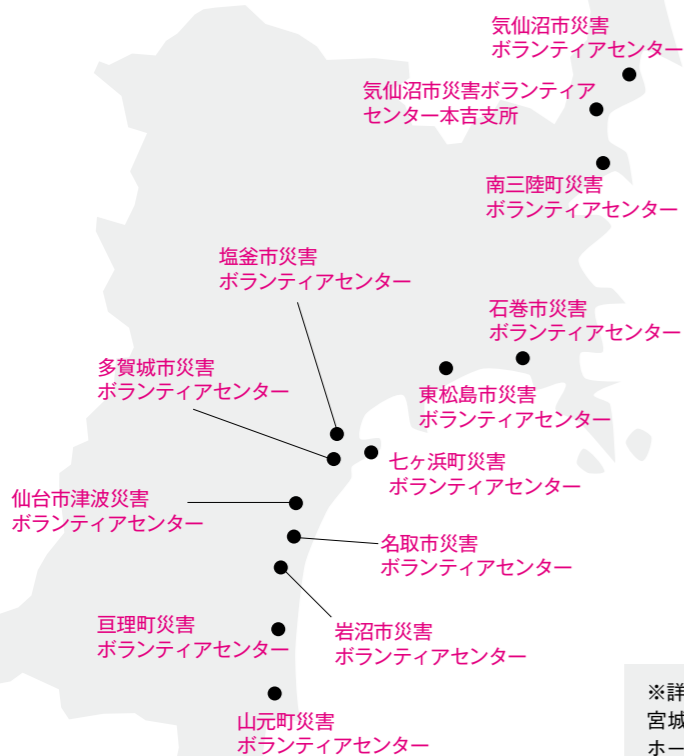


宮城県社会福祉協議会が他団体と協働設置している宮城県災害ボランティアセンターでは...



平成23年3月11日「東日本大震災」発災により、3月12日「宮城県災害ボランティアセンター」を宮城県・みやぎ災害救援ボランティアセンター・宮城県社会福祉協議会により、宮城県社会福祉協議会に共同設置しました。

宮城県内の市町村災害ボランティアセンター設置状況



宮城県内の市町村災害ボランティアセンターの状況
5月末現在、12の市町村にて災害ボランティアセンターが設置され、現地における被災者のニーズとボランティアを繋ぐ橋渡し役を担っています。

全国の社会福祉協議会からの応援
現在、近畿・中国・四国ブロックの社会福祉協議会の職員が、沿岸部の市町村災害ボランティアセンターの運営スタッフとして応援に入っています。

名取市災害ボランティアセンターのご紹介

人口7万2千人余りの名取市は、開上や下増田など津波により約千人の住民が死亡、行方不明という甚大な被害を受けました。

主なボランティア活動としては、開所当時は津波被害のない地域の家屋内の片付けや避難所にいる子どもの遊び相手、その後、津波被害のあった地域の泥出しや写真等の拭き取り、そして現在は仮設住宅に生活している方の支援と移行しています。

「私の家は大きな被害がなかったし、学校も休みだからボランティアに来ました」とニコリ笑う高校生グループ等、地元を中心とした中・高・大学生の若い力が目立った最初の1ヵ月。現在は主婦や年配の方、企業、そして県外の方等、様々な方がボランティアとして来ています。

また、「いってらっしゃい」「お疲れ様でした」と明るい声と笑顔で絶やさず、名取市災害ボランティアセンターの運営スタッフ。ボランティアの皆さんが気持ちよく活動できるよう、感謝の気持ちで接しています。

これからも、名取市災害ボランティアセンターをよろしくお願いします。

名取市災害ボランティアセンターのキャッチフレーズ

「一人じゃないよ一緒に頑張ろう!!」

愛する名取が元気な町になりますように。



協働団体の活動をご紹介します



「ジャパン・プラットフォーム」は、宮城県災害ボランティアセンター内において、炊き出しを希望するグループと市町行政との調整を行い、被災者に対して、栄養面も考慮したバランスのとれた食事の提供に貢献しています。

宮城県災害ボランティアセンターを運営する協働団体

JANIC、Snow Peak、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議、ジャパンプラットフォーム、全国大学生協連、全国社会福祉協議会（近畿・中国・四国ブロック）、せんだい・みやぎNPOセンター、東京都社会福祉協議会VC、日赤宮城県支部、防災科学技術研究所、ボランティアインフォ、宮城県、宮城県企業人材支援協同組合、宮城県社会福祉協議会、宮城県民生委員児童委員協議会、みやぎ災害救援ボランティアセンター、みやぎ生協、杜の伝言板ゆるる、山形県社会福祉協議会、ルーテル教会救援ボランティア、連合宮城（アイウエオ順）

以上の協働団体が宮城県災害ボランティアセンターを拠点とし、被災地での活動のほか、各種調整、資機材調整・調達、電話対応、現地における運営支援・スタッフ派遣等を行っています。